

ニホンジカによる森林被害

1 はじめに

長野県におけるニホンジカ (*Cervus nippon* 以下シカという) による農林被害は、全国各地と同様に増加し、2003 (平成15) 年度には農林業被害の総額は4億9000万円余りに達しています。中でも、林業被害はシカの生息密度が高い本県南部の下伊那、上伊那地域を中心に、約3億9000万円に達しています。また天然性立木の剥皮、下層植生の採食などによる森林環境への影響も新たな問題となってきています。

2 ニホンジカの生息分布の拡大

本県におけるシカの生息分布は、1970年代後半に南アルプス、伊那山地、美ヶ原、関東山地、八ヶ岳でまとまった分布域が確認されていました (環境庁1978)。その後の約20年でシカの生息分布は、南アルプスや伊那山地 (守屋山～戸倉山) から天竜川を越えて中央アルプスへ、美ヶ原や八ヶ岳北部から犀川を越え、長野市北部へ、関東山地では千曲川に沿って北側の浅間山へ生息分布が拡大しました (長野県 2001) (図)。

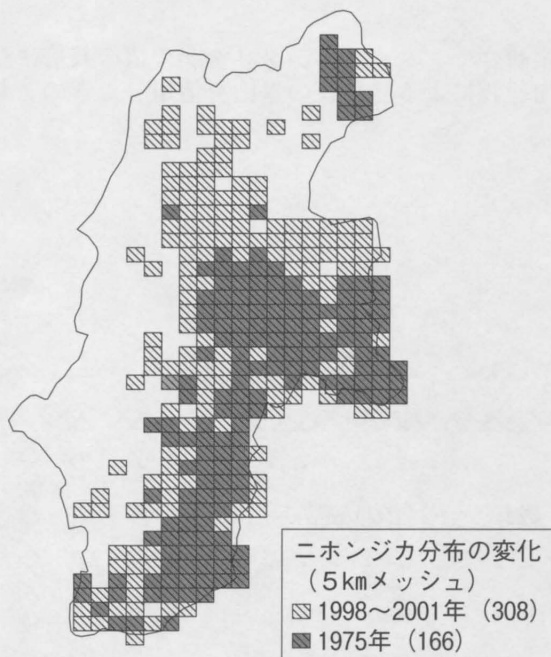


図 ニホンジカ生息分布の変化 (長野県2001)

また、ここ数年では、南部では中央アルプスを越えて木曾郡木祖村、南木曾町へ、北部では長野市西部 (旧戸隠村、旧鬼無里村)、中条村へ、東部の浅間山から真田町へ生息分布の拡大がみられ、シカが苦手としてきた豪雪地域の小谷村、栄村などでもシカの生息が確認されています。

南アルプス地域では、区画法による生息密度調査、スポットライトセンサス調査、農林業被害量の経年変化から生息密度が増加傾向にあることが示されています。また林業総合センターで実施している塩尻市東山山麓のスポットライトセンサス調査においても、春 (3、4月) に確認される個体数が年々増加してきています (写真-1)。



写真-1 塩尻市東山で観察されたシカの群れ

3 ニホンジカによる森林被害

シカによる被害は次のように分けられます。

- 1) 農業被害 (農作物の食害、踏み荒らし)
- 2) 林業被害 (人工林の枝葉食害、剥皮被害)
- 3) 自然植生被害 (天然立木の剥皮枯損被害、下層植生、高山植物の食害など)

林業被害は、過去5ヶ年をみると毎年3億円以上となっています。シカによる被害は、以前問題となったカモシカによる被害と異なり、造林木の枝葉食害だけでなく、幼齢木から壮齢木までの剥皮被害 (角こすり、樹皮食害) により樹幹の腐朽、立木枯損が発生します (写真-2)。



写真-2 ヒノキ人工林の剥皮被害
(下伊那郡大鹿村)



写真-4 食害で衰退したスズタケ (塩尻市)

自然植生の被害は、天然立木の剥皮被害がみられる他に、下層植生などの食害が深刻化しています。

従来から生息密度が高いとされていた南アルプス地域の調査では、林内の下層植生などの食害が激害化し、林床のスズタケなどササ類の衰退や喪失が認められました。また下層植生がシカの好まないアケボノソウ、イケマだけになってしまった箇所や、植生が欠如したことによって土壌の流亡が始まった箇所も確認されました(写真-3)。

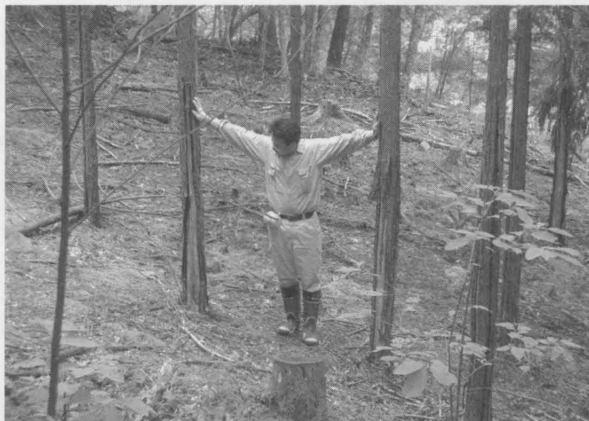


写真-3 下層植生がなくなったヒノキ林
(下伊那郡大鹿村)

こうした自然植生の被害は、南アルプス地域以外でも確認されています。

塩尻市東山地域でも、スズタケなどのササ類の衰退が確認される(写真-4)とともに、鉢伏山から高ボッチ山にかけての山頂周辺では、ニッコウキスゲの群落が食害を受けて、激減しています。

また、針広混交林化を進めるために強度間伐して広葉樹天然更新を図る施策が実施された箇所、シカが実生稚樹を食害し、広葉樹類の生育が阻害されている事例も存在しています。

こうした被害が増加していくと、その地域に存在する植物やそれに関係する昆虫類の衰退、森林土壌の流亡による水土保持機能の低下など、森林生態系そのものにも影響を及ぼします。

4 被害に対応するために

シカによる被害は、個体密度が高くなると増加することが知られています。そのため、長野県では特定鳥獣保護管理計画に基づいて防護柵などの被害対策とともに、個体数を減少させるための積極的な捕獲に取り組んでいます。しかし、まだ効果が目に見える段階には至っておらず、今後とも広域的な協力による捕獲の推進が必要となっています。

また、現在目に見える被害がない地域でも、シカの生息分布拡大に注意し、個体数が増えないように対策を講じる必要があります。

特にシカが好むヤマウルシの冬芽やササ類の採食痕、および立木の角こすり痕などがみられた場合は、シカが生息しはじめたサインですので対策の検討を始めてください。(育林部 岡田充弘)

《参考文献》

環境庁(1978)第2回環境庁自然環境保全基礎調査
長野県林務部(2001)特定鳥獣保護管理計画策定
調査報告書-ニホンジカ調査-